

絆

学校便り2月号

きずな

日置市立生橋中

令和4年2月21日



からだの中に軸をつくる

校長 井之上 良一

今年のNHKの大河ドラマは、皆様御存じのとおり『鎌倉殿の13人』(脚本 三谷幸喜)です。よく話題にされる視聴率の方も好調のようで、西田敏行さん演じる「後白河法皇」と松平健さん演じる「平清盛」がはまり役だと評判になっています。

今回も「平清盛」は、非道・非情の人物(悪役)として描かれているようですが、実在の清盛は上の者にも下の者にも心遣いのできる情け深い人物だったといわれています。

今から10年ほど前に放送された大河ドラマ『平清盛』では、確かにそうした姿も描かれていました。また、父である平忠盛の時代も丁寧に描写されており、父子の在り様という視点からドラマを眺めてみると、味わい深い場面がいくつもありました。中でも、父忠盛が「からだの中に軸をつくれ」と、清盛に繰り返し言葉を投げかける場面は強く印象に残っています。



主演(松山ケンイチ)

「軸」とは体(からだ)そのものの強さを意味しているのではなく、夢や志といった人生を賭して目指すべきものを意味しているものと思われます。他方、信念や哲学、信仰といった精神的な領域に属することも意味していると考えられます。いずれにしても、人生の荒波を泳ぎ続けていくためには、からだの中に強い軸が形成される必要がありますし、また、軸をつくり続ける努力をしていくことが必要なのではないかと思います。

その意味で、私たちは子どもたちが強い軸を形成できるように、日常意図的に働きかけをしていかなければならないと考えます。では、子どもたちを教育するに当たって、具体的にはどのような軸をつくる努力をしていけばよいのでしょうか。

戦中・戦後の特別な状況下で書かれたものではありませんが、人間としての軸の在り方を考える上で示唆的な文章があります。それは、『国民の遺書』(小林よしのり責任編集)という本に収められている次の一編(遺書)です。



話題になった同書の帯

(前略)一、私は敏子を離別します。一、敏子に再婚させてください。一、私を成仏させてください。私は敏子が現在の不幸に打ち勝って再婚し、母となり幸福になった時成仏できます。そのほかに成仏はありません。追善供養は不要です。お父様、お母様、敏子をいたわってやってください。彼女が涙もかれてしまい、精も根も尽きるほどの不幸に落としたのは私です。また悪い星の下に生まれた私であり敏子でありました。どうかいたわってくださいませ。最後の願いはこれだけです。(後略) [※ 旧仮名遣いを現代仮名遣いに修正して引用]

この遺書を残した陸軍の憲兵は、太平洋戦争後の軍事法廷で上官の命で従事していた中国人捕虜の警備が罪状となり、死刑を宣告された人です。従って、遺書は死刑を念頭に、その直前に書かれたものと推量されます。この遺書が読む者の心を強く揺り動かすのは、罪なき罪により死にゆかなければならないという不条理と向き合いながらも、最愛の人の幸せを願う、その愛の深さに胸を打たれるからではないでしょうか。

そして、遺書の後段には、「私は人生の喜びも、彼女によって与えられました。収容せられてもこの淋しい獄舎にて、暖かい便りや衣類を送ってくれ、その愛情に包まれております。私の心は幸福でした。」と記されています。ここに並んでいるのは、感謝に満ちた温かな言葉ばかりです。自らの生の意味、死の意味を問う中で、わき上がってきた感情が世の不条理に対する怒りではなく、ひたすらに感謝する心であったということは驚くべきことです。人間、いくら精進を重ねたとしてもこのように振る舞うことは難しいのではないかと思います。ここに、「感謝する」という心の軸を持った人の優しさと強さを思うのです。この感謝という心の軸こそ、多くの人が指摘しているように、子どもたちのからだの中に主軸として培っていききたいものです。

さて、翻って考えてみると、私たちの現実の姿はどうでしょうか。他人より自分自身のことを優先する考え方が支配的な面はないでしょうか。周囲の人や世間の存在を有り難く感じられているのでしょうか。また、感謝する心の大切さをどれほど子どもたちに伝える努力をしているのでしょうか。そして、それは行動や態度を伴ったものとなっているのでしょうか。少なくとも自分自身を振り返ってみると、心もとない限りです。

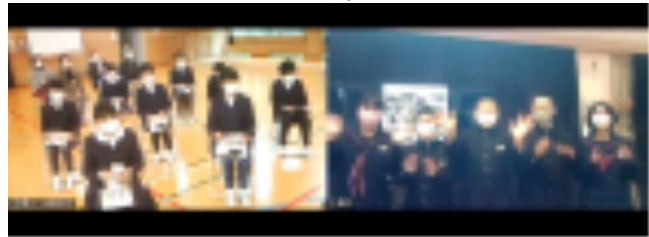
だいぶ前に聴いた講演の中で、講師の先生は「ありがとう」という言葉は魔法の言葉であると力説しておられました。すなわち、相手を大切に思っているというメッセージであり、有用感や存在感を与える言葉だというわけです。なるほど、「ありがとうごさいます」や「ごくろうさまです」といった言葉は、感謝の心に根差しており、日本語の中でも特に美しい言葉だと言ってもよいでしょう。しかし、私たちは日常生活や子育ての中で、そのことをどれくらい意識して使うことができているのでしょうか。一度振り返ってみる必要があると思います。

中学校入学説明会 2/9

例年は、土橋小学校の6年生を中学校に迎えて、入学説明会を実施しますが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、今回は小学校に職員が出向いて実施しました。

この説明会の中で、本校の1年生が、Zoom(Web会議サービス)を使って中学校の体育館から国語科の授業で作成したガイドブックをもとに、中学校生活と小学校生活との違いを分かりやすくプレゼンテーションしてくれました。双方向のICTを活用した新たな形の説明会になりました。

令和4年度は、土橋小学校以外に他の学校からの新入生も来る予定になっています。人数が増えて活気が出てきそうです。新入生の皆さんの入学を心から楽しみにしています。



おめでとうございます

第3回実用英語技能検定

5級合格

1年 稲留 伊蔵さん、大山 竜輝さん
馬場園 緩那さん、山田 希竜さん

※今年度の実用英語技能検定は、延べ16人の生徒が受検しました。来年度も更に、たくさんの生徒が資格取得に挑戦してくれることを期待しています。

譲り葉の会(立志式) 2/10

進路選択を1年後に控えた2年生が、これまでを振り返り、今後の生き方を考え、目標を発表する譲り葉の会を実施しました。3年生の里玖さんから「志を立て、クラスみんなで協力しながら夢に向かって頑張ってください」と、自分の経験を踏まえたお祝いの言葉を頂き、その後、それぞれが決意のこぼを述べました。

今回は、本校の卒業生で 〇〇〇〇〇〇 年生の 〇〇〇〇〇〇 さんが、パワーポイントを使って、たくさんの参考になる話をしてくださいました。この節目の会を期に、最上級生となる2年生の今後更なる活躍を期待しています。



読書活動・NIE活動

図書便り等でも紹介しておりますが、本年度も金曜日の全校読書の際は、ビブリオトークやスクラップブックトークなどの活動を生徒会学習文化部が中心となり行っています。

2月4日は今年度11回目となるスクラップブックトークでした。自分が興味を持った新聞記事を切り取り、それぞれのスクラップブックに貼ってグループで見せ合い、関心の高い順に発表していきます。子どもたちは、発表力や表現力を少しずつですが鍛えています。

また2月1日の生徒集会では、生徒会学習文化部が大型提示装置を使って読み聞かせをしました。

これらの活動は、授業でも成果として現れており、学習問題にさまざまなアプローチで取り組み、お互いに意見を交換し、練り上げ、答えを導く姿が見られるようになってきています。今後もぜひ継続していきたいと思っています。



「ネット・SNSを毎日見ているあなたへ」について

2学期末に、学級で読み合わせをして生徒便で持ち帰らせましたが、家庭の方でも中身を御覧になったでしょうか。

日置市PTA連絡協議会・青少年育成市民会議・教育委員会が編集した冊子ですが、「SNS、オンラインゲーム、ネットショッピング」に関するトラブルについて、ケースごとに分かりやすくまとめられており、トラブルを防ぐためのフィルタリングやルールづくりについて保護者と話し合う紙面もあります。

進学・進級を迎えるこの機会に、子どもさんと是非一緒に御覧になり、活用していただきたいと思います。

また、ネットやSNSなどのことについて、何か気になる事がありましたら、いつでも連絡、相談していただければ幸いです。



日	曜	3月の主な行事予定
1	火	おひさまあいさつの日 PTA評議員会
3	木	公立高校入学者選抜(~4日)
8	火	巡回図書
11	金	同窓会入会式 お別れ球技大会
12	土	土曜授業 学年末PTA
14	月	卒業式予行・準備
15	火	第72回卒業式
16	水	公立高校合格発表
21	月	(祝)春分の日
25	金	修了式
28	月	離任式 PTAお別れの会